

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

アオウミガメ

【英名】 green turtle

【学名】 *Chelonia mydas*

日本では小笠原諸島や南西諸島などの暖かい海で見られるウミガメです。展示している個体は2019年8月に小笠原の母島でふ化し、9月に水族園にやってきました。搬入当初は手のひらサイズと小さく、上手に潜ることができなかったのですが、エサを食べさせるために水深の浅い水槽に移さなければいけませんでした。今年の2月には甲羅の長さが約20cmに成長し、深さのある水槽でも潜っていけるようになりましたが、まだバランスがとれず足をバタつかせる様子は少し頼りなく感じます。それでも以前と比べるとかなり泳ぎが上達しました。現在は「東京の海」エリアで一番広い水槽、「小笠原の海 4」で展示しています。大きな水槽で前足を羽ばたかせて泳ぐ姿をぜひご覧ください。（飼育展示係 八木 花乃香）



CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 手さぐりの赤ちゃんメンダコのお世話
- 見えないからこそ見える姿

なぎさNEWS

- 2019年 この1年の「西なぎさ」

水族園のもう一つの顔

- 調査結果を展示につなぐ
- 眠っている間に...

TSLP LATEST

Vol.18 No.2 2020

APRIL

通巻

91

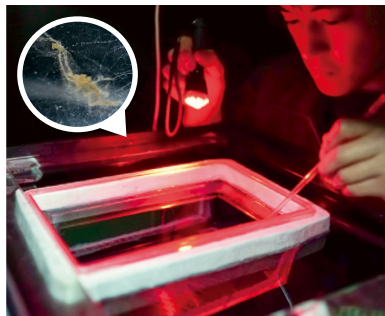
手さぐりの赤ちゃんメンダコのお世話

2019年11月に、死んでしまった大人のメンダコから取り出して発生を観察していた卵から、メンダコがふ化しました。これは世界でも3例目となる出来事です。水族園では2016年に世界で初めてのふ化に成功し、この時に「メンダコは生まれたときからメンダコの形である」ことがわかりました。

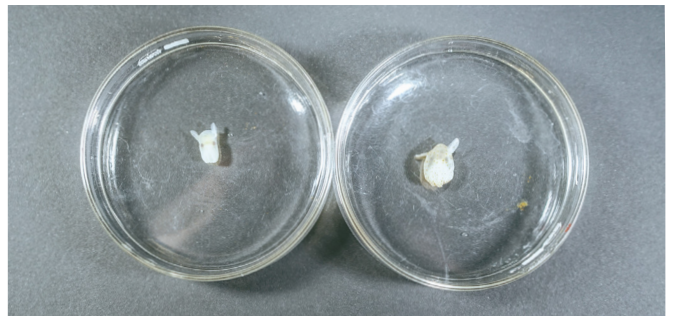
これまでのメンダコ飼育の経験から、ふ化した赤ちゃん（ふ化稚仔）を飼育するためには暗い環境が必要なため、水槽周りにしっかりと暗幕を張りました。しかし、暗幕の中は暗すぎて水槽の中が全く見えず、掃除がとて大変でした。ガラス管にビニールチューブをつけた手作り器具を使い、ゴミを吸い出すのですが、どこに何があるのかまったくわかりません。そこで深海生物の眼には比較的優しいといわれる赤色ライトで少しだけ照らすことにし

ました。水槽に浮かべたケースの底にいる一円玉ぐらいの大きさ（2cmぐらい）のメンダコに直接、光を当てないようにし、急に泳ぎだしたりしないかひやひやしながら掃除をしました。吸い出したゴミは明るいところで確認します。残ったエサに混じった赤ちゃんのふんを初めて見つけたときには、ちゃんと食べたエサを消化していることがわかったので、思わず「ウンチあった!」と声をあげてしまいました。

手さぐりでのお世話の日数は、前回の5日間と比べ、27日間とずっと長くなりました。さらに前回のメンダコの赤ちゃんの大きさを比べてみると、成長している様子も確認できました。今後もメンダコの長期飼育に取り組むことで、謎の生態を少しずつでも解明していきたいと思います。（飼育展示係 小味 亮介）



ふわりと泳ぎあがった赤ちゃん 掃除の様子とふん(左上)



ふ化後日数5日(左)と27日(右)の標本。右の方が成長している

見えないからこそ見える姿

水族園では、深海でくらすタコのなかまのメンダコの長期飼育に取り組んでいます。メンダコは、冬から春の時期に深海トロール漁船に乗せてもらい、さまざまな深海生物と一緒に採集しています。網の中でもみくちゃんになって水揚げされるため、個体へのダメージはどうしても避けられません。ダメージの少ない個体が採集できたチャンスを生かして試行錯誤をしてきた結果、メンダコは明るい場所では長く飼えないことや暗い水槽内では意外と活動的であることがわかってきました。

そこで、昨年からは暗くした水槽内を高性能高感度カメラで撮影して、リアルタイムで来園者にお見せする「リアルタイムモニター展示」を行なっています。この展示方法によって、メンダコを直接見ることはできませんが、メンダコ本来の行動を引き出しながら長期飼育を目指すことができます。この展示方法を始めてから、今まで見たことのなかったメンダコの様子を観察することができるようになりました。2019年5月に23日間飼育できた際には、メンダコがエサとして与えたヨコエビを捕まえるために素早く浮き上がったり着地したりを繰り返すアクティブな動きが見られました。また、捕まえたヨコエビをちゃんと食べていたことも確認でき、メンダコのさらなる生態解明と長期飼育への期待が高まりました。もしかしたら、未だに解明されていないメンダコの行動を皆さんが目撃することがあるかもしれません。モニター展示だからこそ観察できる行動に今後もご注目ください。

メンダコの展示状況や興味深い行動は、水族園ホームページやTwitterなどでもお伝えしていきます。（飼育展示係 村松 菜由子）



暗い水槽の中で意外と活発に動きまわるメンダコ

なぎさ NEWS



2019年 この1年の「西なぎさ」

水族園では偶数月に葛西海浜公園「西なぎさ」で小型地曳網を使用した生物調査を行っています。2019年の調査結果は下の表のとおりです。4月から10月の調査では例年通り10種以上の魚種が確認されており、6月の調査では2014年から入網し始めたトラフグの稚魚が多くみられました。また、8月にはマゴチが例年より多く出現していました。
(飼育展示係 石神 まゆか)

【2019年地曳網調査結果】

分類	実施月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	合計個体数
	水温 (°C)	9.5	19.3	25.0	31.0	21.0	12.5	
分類	塩分 (PSU) ※ 1	31.0	28.2	15.0	5.0	16.1	28.5	合計個体数
トビエイ目	アカエイ				2			2
ニシン目	サッパ					23		23
	コノシロ			400	71	1		472
	カタクチイワシ					2		2
サケ目	アユ	82	33					115
	イシカワシラウオ				1	2		3
コイ目	マルタ					5		5
ダツ目	クルマサヨリ		3					3
	サヨリ			13				13
	サヨリ科の一種				1			1
カダヤシ目	カダヤシ					1		1
スズキ目	トウゴロウイワシ			1				1
	ボラ		192	7	4		1	204
	ヒイラギ				4	4		8
	スズキ	1	18		1			20
	コンショウダイ				6			6
	キチヌ					19		19
	クロダイ			14	5			19
	マハゼ		193	32	61	2	2	290
	アシンロハゼ	1	33		112	64		210
	ツマグロスジハゼ				1			1
	ビリンゴ		551	3	1			555
	ニクハゼ			1				1
	エドハゼ	1	187	1,732	1	6	4	1,931
	チクゼンハゼ			2				2
	ウキゴリ属の一種		24					24
	ヒモハゼ	1	3	77	459	2		542
	ヒメハゼ			2	13	32	1	48
	シモフリシマハゼ				43	2		45
	チチブ				3			3
	チチブ属の一種 1				63	1		64
	チチブ属の一種 2			1	9	1		11
	ハゼ科未同定種		270	27	675	34		1,006
	イダテンギンボ				1			1
カサゴ目	マゴチ				61	1		62
フグ目	クサフグ				2			2
	トラフグ			88				88
合計個体数		86	1,507	2,400	1,600	202	8	5,803
種類数 ※2		5	11	15	24	18	4	37

※1 普通の海水の塩分は34.5ほどです。雨の多い季節は川から淡水が多く流れ込むため、薄まって値が低くなります。

※2 種がはっきりしていない仔・稚魚も、一種として数えています。

水族園 のもう一つの顔

調査結果を展示につなぐ

「東京の海」エリア「東京湾の漁業」水槽では、2019年9月よりマゴチを展示しています。マゴチは成長すると全長が80cm以上になる魚食性の魚で、幼魚期には干潟などの浅瀬で過ごします。現在展示している個体は、私たちが2018年8月に葛西海浜公園「西なぎさ」で行った地曳網調査で採集しました。

採集時は全長6cmほどの幼魚で、地曳網調査の結果を紹介する小水槽「葛西の海2」で11月まで展示しました。その後、バックヤードの水槽へ移し、約1年かけて10cmほどまで育成しました。そして、「東京湾の漁業」水槽に展示したのです。

この水槽では、30cmほどのスズキやホウボウが同居しているので、せっかく育てたマゴチが食べられてしまわないかと心配していましたが、2020年2月現在、1番大きい個体は20cmほどに成長し、その姿は砂の上でよく見えています。大きくなってくると、こんどはマゴチが他の魚を食べてしまわないかと心配になります。

今回は身近な海の生き物を調査するだけで終わるのではなく、採集した魚を育て、展示につなぐとても良い機会になりました。

(飼育展示係 太田 智優)



「東京湾の漁業」水槽 砂の上のマゴチ

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 2/1 小学校教員対象セミナー「はじめての生き物飼育」を実施
- 2/1-28 都立動物園・水族園の使い捨てプラスチック使用量削減の取り組みを広く知っていただくためのキャンペーンを実施
- 2/12 「浮遊生物 6」水槽でカミクラゲを展示
- 2/13 開園30周年記念イベント「水族園お仕事体験」を実施
- 2/13-24 「深海の生物 トピック水槽」でメンダコをモニター展示
- 2/16 「大道芸 de ほっと Zoo!! 2020」を実施
- 2/21 「深海の生物 3」水槽でミツクリザメを展示
- 2/22- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベント等中止
- 2/24-27 「深海の生物 3」水槽でヨロイザメを展示
- 2/27 「浮遊生物 5」水槽でハナビラウオを展示
- 2/29- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休園

眠っている間に・・・

水族園には専属の獣医師がいて、生き物の病気やケガの治療を始めさまざまな仕事をしています。その中でも今回は、シノメサカタザメの麻酔についてご紹介します。もともと雌雄1尾ずつ同じ水槽で展示していましたが、成長にともないオスがメスを追尾し、尾ビレを咬んで傷つけるようになりました。この行動は繁殖行動の一つとされていますが、水槽内ではメスの逃げ場所が限られ、傷は徐々に悪化していききました。そこでオスとメスを別々の水槽で飼育することにしたのですが、力の強い、体重約50kgの個体を安全に移すためには麻酔をかける必要がありました。使用する麻酔薬は犬にも使う注射薬です。麻酔の使用量は魚種や体重によって異なるため、入念に必要量を検討しました。作業当日、麻酔薬を注射すると泳ぎは徐々に遅くなり、体の力も抜けていきました。完全に眠ったところで、素早く別の水槽に移しました。移した後も、麻酔で弱くなった呼吸を助けるためホースを口に入れて新鮮な水をえらに送り、全身の血液の流れを良くするため尾ビレを左右に振って体を動かす続けました。麻酔後、30分ほどで泳ぎ始め、ようやく一安心です。メスの傷は現在、順調に回復しています。(飼育展示係 杉本 悠真)



麻酔中はホースで呼吸の補助をする

編集後記

葛西臨海水族園は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日から臨時休園となりました。当初は3月15日までの予定でしたが、その後、休園期間を延長しました。現時点では欧米諸国を中心に感染者数が増加していて、一向におさまる気配がありませんが、咳エチケットと手洗いを徹底しつつ、一刻も早く終息することを願っています。(佐藤)



TOKYO
SEA LIFE
PARK

SEA LIFE NEWS 通巻91

Vol.18 No.2 2020 APRIL 4月1日発行 (次号は2020年6月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

